令和3年度 事務事業評価シート

事務事業名	消防職員研修事業	事務事業コード	10205102	整理番号	298
(予算事業名)	(常備消防活動事業)				
担当課名	消防本部総務課	担当係名	庶務係	作成日	令和3年6月25日

I. 事務事業の概要

1 総合計画上の位置づけ	まちづくりの柱	1 安心・安全で活力を生み出すまちづくり			
	基本方針	2 市民の命と財産を守る安心・安全な環境をつくります			
	施策	5 消防・救急体制の充実			
	取組項目	消防体制の充実			
2 事務事業の対象	☒ 不特定の市民 ☐ 特定の市民 ☐ 不特定の企業・団体 ☐ 特定の企業・団体 ☐ その他 具体的に()				
3 事務事業の意図(ねらい)	消防職員の知識や技術が向上することにより、複雑及び多様化する災害に対して、迅速かつ的確に対応することを目指す。	活動指標	指標名(単位)	各種研修への派遣回数(回)	
			算出法	年度内に消防学校等で開催される教育課程に派遣した回数	
4 事務事業の内容	消防学校等で実施される教育課程に対して、消防職員を派遣する。	成果指標	指標名(単位)	各種研修を修了した延人数(人)	
			算出法	消防学校等で開催される教育課程に派遣した延人数	
5 これまでの改革・改善の取組経緯	指導救命士による救急隊の育成や特別救助隊の発隊により、高度な知識や技術の習得に取り組んでいる。				

II. 事務事業の業績(指標と投入資源の推移)

指標・投入資源		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度(目標・予算)	対前年比R02/R01	
1 事務事業業績指標	活動指標	16	18	16	21	88.9%	
	成果指標		24	18	22	75.0%	
	効率性	コスト指標	コスト計/活動指標(円)	318,750	255,611	300,500	237,905
2 投入資源	①投入人員(人)	正職員	0.50	0.50	0.50	0.50	100.0%
		再任用職員					
		非常勤等(アルバイト除く)					
	②支出内訳(千円)	人件費	3,483	3,114	3,116	3,176	100.1%
		事業費	1,617	1,487	1,692	1,820	113.8%
	③コスト計(=人件費+事業費)(千円)		5,100	4,601	4,808	4,996	104.5%
	④事業費財源内訳(千円)	特定財源	国・府補助金				
地方債							
受益者負担等							
⑤その他考慮すべきコスト		将来発生するコスト(施設・設備・金利等)					
		一般財源	5,100	4,601	4,808	4,996	104.5%

III. 事務事業の評価と改革・改善策

評価の視点	評価	評価の判断理由の説明
1 必要性の評価 	☒ 1 事業を行う義務がある ☐ 2 事業の必要性が高い ☐ 3 事業の必要性が低い	消防組織法第1条に規定されている「消防の任務」の遂行のため。
2 有効性(顧客の視点)の評価	☒ 1 非常に有効 ☐ 2 効果があった ☐ 3 あまり効果がなかった	教育課程に派遣するだけでなく、派遣者が得た知識や技術を職員にフィードバックすることにより、組織全体のレベルアップに取り組んでいるため。
3 効率性(コストの視点)の評価	☐ 1 向上 ☐ 2 横ばい ☒ 3 低下	新型コロナウイルス感染症に伴う、研修中止等により派遣回数及び延人員が減少したため。
4 今後の方向性(総合評価)	☒ A 計画どおりに事業を進めることが適当 ☒ B 事業の進め方の改善の検討 ☐ C 事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討 ☐ D 事業の抜本的見直し、休・廃止の検討	
5 評価結果に対する所見(事業の総括と課題に対する改革・改善策)	複雑及び多様化する災害から市民の生命・財産を守るため、各種研修への派遣は継続するべきである。	

令和3年度 事務事業評価シート

事務事業名	消防庁舎管理事業	事務事業コード	10205106	整理番号	299
(予算事業名)	(常備消防活動事業)				
担当課名	消防本部総務課	担当係名	庶務係	作成日	令和3年6月25日

I. 事務事業の概要

1 総合計画上の位置づけ	まちづくりの柱	1 安心・安全で活力を生み出すまちづくり
	基本方針	2 市民の命と財産を守る安心・安全な環境をつくります
	施策	5 消防・救急体制の充実
	取組項目	消防体制の充実
2 事務事業の対象	☒ 不特定の市民 ☐ 特定の市民 ☐ 不特定の企業・団体 ☐ 特定の企業・団体 ☐ その他 具体的に()	
3 事務事業の意図(ねらい)	消防庁舎の機械設備を良好な状態に保つことにより、日々の消防活動が円滑に行えるようにする。	活動指標 指標名 (単位) 消防庁舎の機械設備に対する保守点検等の回数 (回) 算出法 年度内における点検それぞれに対して1回とする
4 事務事業の内容	定期的に機械設備の保守点検等を実施し、消防庁舎の維持管理をする。	成果指標 指標名 (単位) 消防活動に支障をきたすことなく安全に業務ができた日数 (日) 算出法 重大な事故がなければ1日とする
5 これまでの改革・改善の取組経緯	平成30年度には消防本部庁舎の外壁改修を実施し、建物の長寿命化を施した。	

II. 事務事業の業績(指標と投入資源の推移)

指標・投入資源		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度 (目標・予算)	対前年比 R02/R01	
1 事務事業業績指標	活動指標	26	26	26	26	100.0%	
	成果指標	365	365	366	365	100.3%	
	効率性指標	コスト指標	コスト計/活動指標 (円)	362,346	351,231	350,846	371,308
2 投入資源	①投入 人員(人)	正職員	0.56	0.56	0.56	0.50	100.0%
		再任用職員					
		非常勤等(アルバイト除く)					
	②支出 内訳(千円)	人件費	3,901	3,488	3,490	3,176	100.1%
		事業費	5,520	5,644	5,632	6,478	99.8%
	③コスト計(=人件費+事業費)(千円)		9,421	9,132	9,122	9,654	99.9%
	④事業費 財源内訳 (千円)	特定	国・府補助金				
財源		地方債					
		受益者負担等					
⑤その他考慮すべきコスト		将来発生するコスト (施設・設備・金利等)	施設修繕や機器更新にかかる費用				

III. 事務事業の評価と改革・改善策

評価の視点	評価	評価の判断理由の説明
1 必要性の評価 	☐ 1 事業を行う義務がある ☒ 2 事業の必要性が高い ☐ 3 事業の必要性が低い	消防活動の拠点となる消防庁舎を良好な状態で維持し続けることは重要である。
2 有効性 (顧客の視点)の評価	☐ 1 非常に有効 ☒ 2 効果があった ☐ 3 あまり効果がなかった	定期的に点検を行い、不良箇所を修繕することにより、庁舎の長寿命化に繋がっている。
3 効率性 (コストの視点)の評価	☐ 1 向上 ☒ 2 横ばい ☐ 3 低下	投入人員が変わっていないため。
4 今後の方向性 (総合評価)	☒ A 計画どおりに事業を進めることが適当 ☐ B 事業の進め方の改善の検討 ☐ C 事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討 ☐ D 事業の抜本的見直し、休・廃止の検討	
5 評価結果に対する所見 (事業の総括と課題に対する改革・改善策)	市民の生命や財産を守るための消防活動を運営するためにも、消防庁舎を良好な状態で維持管理することは必要不可欠である。しかし、消防本部庁舎は運用開始から20年を超える年月が経過しており、定期的な点検のみでは維持できなくなってきたのが現状である。よって、今後は機器更新も踏まえた計画を立てる必要がある	

令和3年度 事務事業評価シート

事務事業名	消防団運営事業	事務事業コード	10205107	整理番号	300
(予算事業名)	非常備消防活動事業				
担当課名	消防本部総務課	担当係名	消防団係 柳 秀忠	作成日	令和3年6月9日

I. 事務事業の概要

1 総合計画上の位置づけ	まちづくりの柱	1 安心・安全で活力を生み出すまちづくり		
	基本方針	2 市民の命と財産を守る安心・安全な環境をつくります		
	施策	5 消防・救急体制の充実		
	取組項目	消防体制の充実		
2 事務事業の対象	☒ 不特定の市民 ☐ 特定の市民 ☐ 不特定の企業・団体 ☐ 特定の企業・団体 ☐ その他 具体的に()			
3 事務事業の意図(ねらい)	近年、自然災害が多発している中、消防団は地域防災力の要であることから、消防団員の知識・技術の向上を図り、災害に強いまちづくりを目指す。	活動指標	指標名(単位)	訓練実施回数(回)
		算出法	実際の訓練実施回数(単年)	
4 事務事業の内容	消防団員の知識・技術の向上を目的とした様々な訓練を実施し、訓練参加人員の増員を目標とする。	成果指標	指標名(単位)	訓練参加延べ人数(人)
			算出法	実際の訓練参加延べ人数(単年)
5 これまでの改革・改善の取組経緯	平成26年の消防団の装備の基準等の一部改正に伴い消防団員の装備を整備し、消防団員の士気の高揚を図り、知識・技術の向上を目的として、全団員を対象とした定期訓練「規律訓練」・「放水訓練」・「救助資機材取扱い訓練」を実施してきた。さらに、近年、全国各地で豪雨などによる水害が発生し、甚大な被害をもたらしていることから、消防本部と連携した水防訓練を計画し、訓練参加人員の増員に取組んで参りました。			

II. 事務事業の業績(指標と投入資源の推移)

指標・投入資源		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度(目標・予算)	対前年比R02/R01	
1 事務事業指標	活動指標	146	156	103	143	66.0%	
	成果指標	2,105	2,174	1,294	1,792	59.5%	
	効率性	コスト指標	コスト計/活動指標(円)	187,301	156,500	207,272	224,853
2 投入資源	①投入人員(人)	正職員	2.50	2.32	2.32	2.32	100.0%
		再任用職員					
		非常勤等(アルバイト除く)					
	②支出内訳(千円)	人件費	17,415	14,447	14,459	14,737	100.1%
		事業費	9,931	9,967	6,890	17,417	69.1%
	③コスト計(=人件費+事業費)(千円)	27,346	24,414	21,349	32,154	87.4%	
	④事業費財源内訳(千円)	特定財源	国・府補助金				
			地方債				
		一般財源	27,346	24,414	21,349	32,154	87.4%
	⑤その他考慮すべきコスト	将来発生するコスト(施設・設備・金利等)	消防団屯所(6箇所)・消防団車両(13台)・可搬ポンプ(6台)の維持管理				

III. 事務事業の評価と改革・改善策

評価の視点	評価	評価の判断理由の説明
1 必要性の評価 	☒ 1 事業を行う義務がある ☐ 2 事業の必要性が高い ☐ 3 事業の必要性が低い	特定又は不特定の市民が生活するうえで必要不可欠な事業
2 有効性(顧客の視点)の評価	☐ 1 非常に有効 ☒ 2 効果があった ☐ 3 あまり効果がなかった	令和2年度においては、新型コロナウイルス感染拡大の影響により予定していた訓練が中止となり、成果指標は未達成となったが、消防団は地域防災力の要であり必要不可欠な存在であることから、消防団員の知識・技術の向上に繋げるために、コロナ禍に対応した訓練を検討し、防災意識の高揚を図る必要がある。
3 効率性(コストの視点)の評価	☐ 1 向上 ☐ 2 横ばい ☒ 3 低下	有効性と同様に訓練が中止となり、訓練参加延べ人数が減少したことから効率が低下した。しかし、消防団については、予想できない災害にも対応することから効率性に表れにくい部分もある。
4 今後の方向性(総合評価)	☐ A 計画どおりに事業を進めることが適当 ☒ B 事業の進め方の改善の検討 ☐ C 事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討 ☐ D 事業の抜本的見直し、休・廃止の検討	
5 評価結果に対する所見(事業の総括と課題に対する改革・改善策)	令和2年度においては、新型コロナウイルス感染拡大の影響により予定していた訓練が中止となり、訓練実施回数103回、訓練参加延べ人数1,294人で前年比を下回る結果となった。課題としては、コロナ禍に対応した訓練を検討し、訓練参加人員を増やすことで消防団員の知識・技術の向上を図り、今後、発生が懸念される南海トラフ地震等の大災害に備え、災害に強いまちづくりを目指す。	